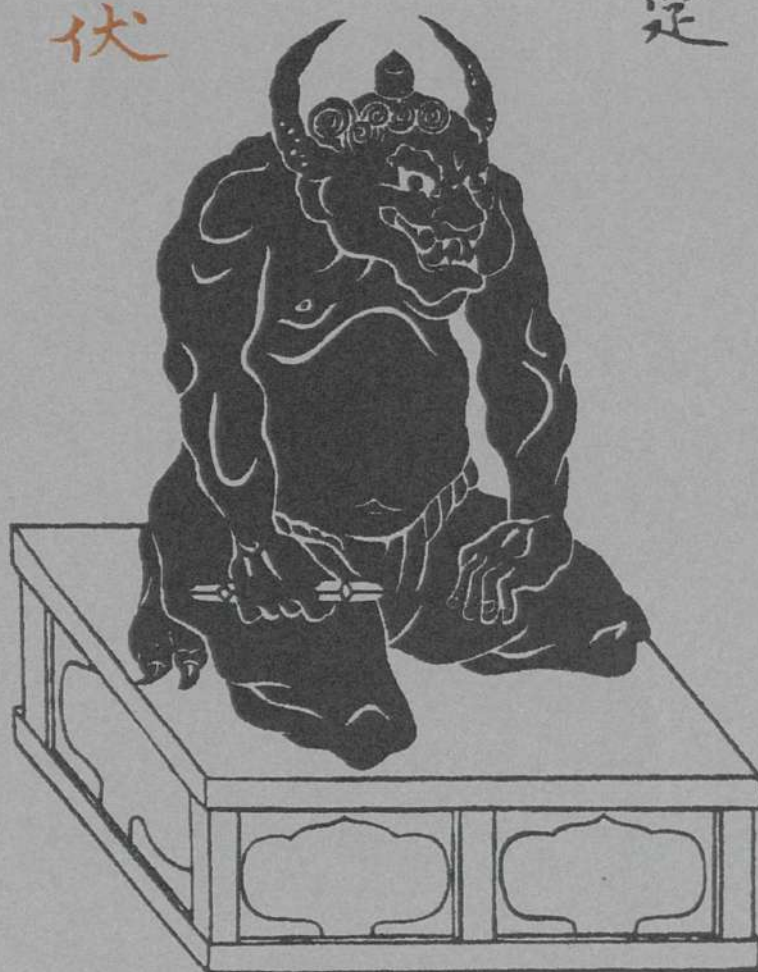


あしなか

第参百参拾式躰 山村民俗の会

悪魔降伏

出楞嚴定



表紙
解説

◆令和六年六月滋賀県での所用に合せて、叡山三塔のひとつ横川を訪ね元三大師のお札を求めることにした。京都八瀬よりケーブル、ロープウェイで山頂に登り、シャトルバスで三塔をめくった。横川の元三大師堂（四季講堂、大師生前はこの地の定心房に住んでおられた）、大師のお墓である「御廟（みみょう）」をお参りして、東塔からケーブルで叡山の里坊である大津市の坂本に降りた。

◆元三大師の札は、御影、角大師、鬼大師、豆大師の四種が知られ、角大師、鬼大師は夜叉（鬼）の姿で表わされている。その物語は「慈恵大師影押民屋事」（返点等略『塵添壺囊鈔』巻十五）がわかり易い。

◆表紙の鬼大師（降魔大師とする人が多い）は、箱形の礼盤の上に右手で独鈷を持つて座っており、頭の角の間に宝珠を戴いている。五来重博士は、この姿を簡略にしたのが角大師ではないかと書いておられた。『北斎漫画』五編（文化一三年）の二十七丁裏に「鬼大師」に似た図があるが、人名（？）の書入れはない。天才絵師の考証があるのだろうか、「札」の絵に拠ったと考えると楽しい。

◆札の右上に「出楞厳定」とある。『諸橋大漢和』を開いてみると、「手（手）でなく「木」偏に「楞」の字があり、「楞厳（りょうこん）」という語句があった。そういう字を使うお経があるという。「楞嚴三昧院」等の整備が、横川を三塔のひとつとして独立させた契機であるという。四字の意味は奈辺にありや。（関 啓司）

あしなか
第百参拾式輯 目次

令和7年6月刊

〈表紙解説〉比叡山横川の鬼大師札（降魔大師）……………関 啓司

南方熊楠と元三大師……………関 啓司 1

―「元三大師札」の分類をめくって―

〈カコミ〉「南方夫人のハガキ」補考……………関 啓司 5

西場の百観音……………鷺頭 隆 6

―栃木県足利市西場町―

〈旅の草ぐさ・38〉

能登の海を照らす―映画「風が灯るころ」を観る……………岡倉 登志 11

〈旅の草ぐさ・39〉

「鹿島踊り」と御輿海上渡御……………山立 虎魚 13

―伊豆宇佐美・初津の春日神社例祭にて―

会員異動 17

会員計報 17

寄付御礼 17

寄贈刊行物ほか 17

年会費七千円（原則前納です）

会費振込みをお忘れなく

二〇二五（令和七）年六月刊 非売品
『あしなか』第参百参拾貳輯 2512
発行 山村民俗の会

編集 岡倉捷郎
印刷 (株)ヌーベル社

東京都千代田区神田神保町一六四
電話 〇三(三三二九一)七〇〇一
乱丁、落丁の場合はお取り替えます